

研究によせて

本年度は、小学校においては、新学習指導要領全面実施の年でした。告示後、さまざまな準備をしてきたところでしたが、前年度の2020年3月からの新型コロナウイルス感染症予防対策によって、学校の様子は一変しました。約3ヶ月の臨時休校期間、6月からの学校再開、授業時間数の確保、夏休みの短縮、3密をさける教育活動、水泳や宿泊学習、運動会の中止など、今までに経験したことのない対応の1年となりました。

そのような中、本校では、校内研究の内容を3年目となる外国語活動や外国語の授業研究を継続することにして、実践を行いました。学校生活の不安定さと対照的に、校内研究推進委員会が核となり、部会毎に着々と研究を進め、公開授業の準備、実践、まとめを行ってきました。

「教職員の本分は授業である。お互いの授業を見合い、授業について研究し、指導案を書いて授業を行ってみる。この繰り返しによって、授業力は確実に向上する。」のことばのように、長年かけて、培ってきた一人一授業公開の体制や同僚同士が授業を見合い、それぞれの知識や経験を行き来させながら、相互に授業力を高めていける同僚性を活かして研究に今年も取り組むことができました。日々の着実な取り組みが、それぞれの指導力を確実に伸ばしています。

今年、年次研修で他校の先生方と研修内容の協議で、本校の研究について話すと、なかなかできることではなく、職員の姿勢や取り組みのよさを指摘されたとの記録がありました。力量のある教職員の努力とチームワークのたまものだと思います。学校の強みを今後も大事にしていきたいと思います。

外国語に関しては、今年度から、3・4年生での外国語活動と5・6年生の教科としての外国語が始まりました。6年生では、英語専科教諭の配置がありました。FLTや英語専科教諭にも協力を得て、研究を進めました。6年生の担任としてのかかわり方については、今後の参考になるところです。

研究も3年目を迎え、教職員の「外国語」への身構え方が、他の教科とあまり変わらず、特別な感じを持たなくなっていることを感じながら、熱心に授業について話し合っている部会の様子を見てきました。カリキュラム マネジメントにつながる、横断的な教科指導の工夫なども授業づくりの中でありました。

3年間の研究成果を今後の外国語指導に役立てていきたいと思います。

2021年（令和3年）3月